

発行続け一つの節目迎える

日本食糧新聞社の歩みと取組み

1万2000号は日本食糧新聞の発行を続けてきたことの節目の一つにかすぎない。提言紙・世論紙・応援紙の使命をあらためて認識し、期待を重くならないよう、「鳥の目」と「虫の目」を凝らし新たな変化の兆候をつかみ伝える研鑽(けんさん)を日本食糧新聞はこれからも積み重ねる。もう一つの使命は「日本食糧新聞」を日本食糧界の歴史として後世にも伝えることにある。発行し続け、わが国食糧界の歴史を共に刻み、年表では紙の上2000号の歩みと日本食糧新聞社の取組みを振り返る。

創刊前史、食糧統制団体の連絡機関

1942(昭和17)年
12月 農林省が食糧統制経済を推進する食糧統制団体の中央連絡機関として中央食糧協力会を設立、同会分室に事務所を置く。協力会の弘報部が食糧統制団体間の情報の掌握・伝達・統制のための機関「日本食糧新聞」の発刊の準備を始める。新聞発行の業務も弘報部が受け持つ。読者への連絡も弘報部が受け持つ。受配権を協力会が買収継承して発刊に充てた。印刷は読売新聞印刷部へ依頼。

機関紙から新聞へ

1943(昭和18)年
1月1日 「日本食糧新聞」が中央食糧協力会の機関紙として創刊。火曜日・土曜日の週2回発行。記者は朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の日報紙出身者。同年半ばには業界紙出身者も加わる。

1944(昭和19)年
1月20日 空襲対策のための官庁分散に伴い中央食糧協力会の事務所が東京・八重洲の東京建物ビルに移転。

1945(昭和20)年
5月24日 東京大空襲で印刷委託先の読売新聞印刷部が被災。創刊から続いた大判による発行は15日付「79号」までとなる。

7月6日 同日付から印刷委託先を焼けていた新橋田村町の曙新聞に代え、判型もA4サイズに2倍して週1回発行に変更。

9月11日 中央食糧協力会解散。

10月29日 中央食糧協力会弘報部長が戦後の食糧行政の実行機関として新設された中央食糧協会の機関紙として「日本食糧新聞」の発行を申し出て、協力会弘報部1部2課と中央食糧協会の弘報部(昭和21)年

11月7日 連合国軍総司令部が中央食糧協会の継承経営の話があるも中央食糧新聞の継承経営の話があるも中央食糧新聞弘報部長が同日、(株)日本食糧新聞社を設立し12月28日付で法人登記。

11月27日 印刷委託先を読売新聞印刷部に戻し、同日付から創刊時と同じ大判2倍建てで水曜日・土曜日の週2回発行に変更。中央食糧協会の弘報部が発行所となる最終号。

11月29日 同日付から日本食糧新聞社が発行所となる。

12月4日 同日付まで「題字」を変更。「日本食糧新聞」の「日本」の横書き部分だけが現在と逆。

1947(昭和22)年
8月1日 関西支局を開設。

10月1日 中部支局を開設。

1948(昭和23)年
6月1日 関東支局、中国支局を開設。

1949(昭和24)年
1月1日 同日付から2倍建て週2回発行を4倍建て週2回発行に変更。

支局網を整備

1951(昭和26)年
1月1日 信越支局、青函通信部を開設。長野支局は信越支局に統合。

1953(昭和28)年
1月1日 創刊10周年。

4月4日 日刊食糧通信の活版印刷化に伴い同日付から2倍建て週3回発行を4倍建て週2回発行に変更。

9月10日 日刊食糧通信の廃刊に伴い、9月14日 週2回発行を4倍建て週2回発行に変更。

11月10日 静岡支局、横浜通信部を開設。

1955(昭和30)年
11月 仙台支局を開設。

1957(昭和32)年
10月10日 信越支局を新潟支局と長野支局に分離。

12月 同年中に印刷の委託先を読売新聞印刷部から日本経済新聞社印刷部(後の日経印刷・現・日経新聞印刷)に変更。

1958(昭和33)年
1月1日 同日付から週3回発行のすべてを4倍建てに変更。前橋支局、千葉通信部を開設。

6月1日 青函支局を解消し北日本総局に、同総局の下には北海道支局と仙台支局を開設。

1957(昭和32)年
4月4日 総局制に移行。関東総局は前橋支局、神奈川支局(同年11月19日付で横浜支局に名称変更)、千葉支局(本社記者の兼任)、関西支局は名称を存続し大阪支局、広島支局、新設の高松支局を、北海道総局は札幌支局、新設の釧路支局を、北日本総局は函館支局、仙台支局を、北越総局は長野支局、新潟支局、静岡支局を、九州総局は名古屋支局、福岡支局、新設の鹿児島支局をそれぞれ統括。

1958(昭和33)年
4月5日 同日付で2000号。

再構築の時代に

1960(昭和35)年
3月3日 千葉支局を開設。

9月2日 同日付から火曜日・木曜日・土曜日の週3回発行を6倍建ての月曜日・水曜日・金曜日に変更。

1961(昭和36)年
7月1日 金沢支局を開設。

1962(昭和37)年
4月2日 同日付から火曜日・水曜日・木曜日・土曜日に変更。

7月25日 同日付で創刊20周年記念号「食糧産業20年の歩み」(タフプロイット判245倍建て)を発行。

1964(昭和39)年
9月 3000号記念・オリシビック東京大会協賛特集・別冊「世界の食糧・日本の食糧」(タフプロイット判380倍建て)を発行。

10月31日 同日付で3000号。

1965(昭和40)年
3月2日 同日付から一面に食糧業界の肩と意を込めた「コラム」(玉門)を掲載。

1966(昭和41)年
4月1日 総局制廃止。東京、名古屋、大阪の3支社に再編。

1967(昭和42)年
7月31日 函館支局を閉鎖し業務を札幌支局と仙台支局に移管。

11月14日 創刊25周年記念で制定した「食糧産業功労賞」の第1回贈呈式を開催。

1968(昭和43)年
7月31日 同日付で千葉支局を東京支社に合併、同日付で横浜支局を閉鎖し業務を東京支社に移管。

1969(昭和44)年
4月1日 印刷の委託先を日経印刷(現・日経新聞印刷)から日本機械関係印刷所(現・きかんし)に変更。

6月19日 東日本支社を設置し東京支社に代わり札幌支局、仙台支局、前橋支局を統括。

1970(昭和45)年
3月16日 同日付で4000号。

食品産業功労賞を制定

1965(昭和40)年
3月2日 同日付から一面に食糧業界の肩と意を込めた「コラム」(玉門)を掲載。

1966(昭和41)年
4月1日 総局制廃止。東京、名古屋、大阪の3支社に再編。

1967(昭和42)年
7月31日 函館支局を閉鎖し業務を札幌支局と仙台支局に移管。

11月14日 創刊25周年記念で制定した「食糧産業功労賞」の第1回贈呈式を開催。

1968(昭和43)年
7月31日 同日付で千葉支局を東京支社に合併、同日付で横浜支局を閉鎖し業務を東京支社に移管。

1969(昭和44)年
4月1日 印刷の委託先を日経印刷(現・日経新聞印刷)から日本機械関係印刷所(現・きかんし)に変更。

6月19日 東日本支社を設置し東京支社に代わり札幌支局、仙台支局、前橋支局を統括。

1970(昭和45)年
3月16日 同日付で4000号。

電算化への対応

1985(昭和60)年
1月1日 編成本部を廃止し編集本部、営業本部、事業本部(1994年9月21世紀事業本部に改称)などを新設。

1986(昭和61)年
2月6日 印刷委託先を廣済堂から日本機械関係印刷所に変更し、コンピュータ組版システムを導入。日本食糧新聞の紙面に大型字体を採用。1行は15字から13字に、1段は92行から84行にそれぞれ変更。

1987(昭和62)年
1月1日 編集スロガンを初めて掲げ、以降毎年の食糧界への意見提案を開始。

6月 パソコン導入。日本食糧新聞記事データベース(DB)の蓄積を開始。

6月24日 ロサンゼルス支局の開設を印刷所(現・きかんし)に変更。

10月10日 創刊45周年を記念し同日付で「食糧界・21世紀への展望と回顧」(タフプロイット判2分冊)2部、2部(3600頁)を発行。

1988(昭和63)年
1月1日 創刊45年。

記事データベースを構築

1991(平成3)年
10月2日 同日付から一面コラム「胃心伝真」を掲載。一面コラム「玉門」は9月30日付で終了。

1992(平成4)年
3月11日 同日付で「日食外食レストラン」創刊。創刊50周年記念で制定した「日食環境資源協力賞」(現「食品安全安心・環境貢献賞」)の第1回贈呈式を開催。

1993(平成5)年
5月17日 パソコン通信のジー・サーチ、ニフティサーチを通じて「日本食糧新聞」の検索サービスを開始。

6月8日 「日本食糧新聞創刊50周年記念の集い」に業界関係者450人が参加。決定。

1983(昭和58)年
4月15日 「月刊・日食新製品リサーチ」(現「食品新製品トレンド」)創刊。

5月18日 「食品界・経営者の集い」を第1回創刊40周年記念で制定した「食品ヒット大賞」を発表。

11月8日 同日付で6000号。

FABEX展が開幕

1997(平成9)年
5月1日 「月刊食品」創刊。創刊50周年を記念して「食の指針」(現「食の指針」)の開設。

6月23日 「ホムページ」の開設。

11月19日 日食外食レストラン新聞創刊50周年を記念して制定した「業務用加工食品ヒット賞」の第1回贈呈式を開催。

1998(平成10)年
5月21日 千葉市の幕張メッセで惣菜デパート・弁当・外食専門展「第1回FABEX展」を開催。

インターネットを活用

2002(平成14)年
7月5日 9000号記念の「全国小売流通特集」(大判2分冊60倍建て)を発売。

8月31日 9000号記念の「全国卸流通特集」(大判2分冊42倍建て)を発売。

2003(平成15)年
1月1日 創刊60周年。

2月3日 インターネットを日本食糧新聞記事検索サービス。

5月16日 創刊60周年を記念して「全国卸流通特集」(大判40倍建て)を毎年定期発行。

6月19日 「創刊60周年記念の集い」を開催。業界関係者5000人が参加。

7月21日 創刊60周年を記念して「全国小売流通特集」(大判2分冊44倍建て)を毎年定期発行。

2004(平成16)年
4月14日 「第7回FABEX展」004にデザート・飲料ゾーンを新設。

9月1日 日本食糧新聞記事検索サービス「食の指針」に変更。

2005(平成17)年
1月 食糧情報サイト「食サイト」運用開始。

2006(平成18)年
4月12日 「第9回FABEX展」006を開催。デザート・飲料ゾーンは独立展開。第3回デザート・スイーツ・ドリンク展」に昇格。

10月1日 大阪支社を関西支社に、名古屋支社を中部支社に、仙台支局を東北支局に、広島支局を中国支局に、福岡支局を九州支局にそれぞれ名称変更。

1月 携帯電話のWebサイトを開設。「日食携帯メール速報」を開始。

4月2日 日本食糧新聞の1面に大型字体を採用し1行は12字から10字に、1

75年目に第2の創業

1997(平成9)年
5月1日 「月刊食品」創刊。創刊50周年を記念して「食の指針」(現「食の指針」)の開設。

6月23日 「ホムページ」の開設。

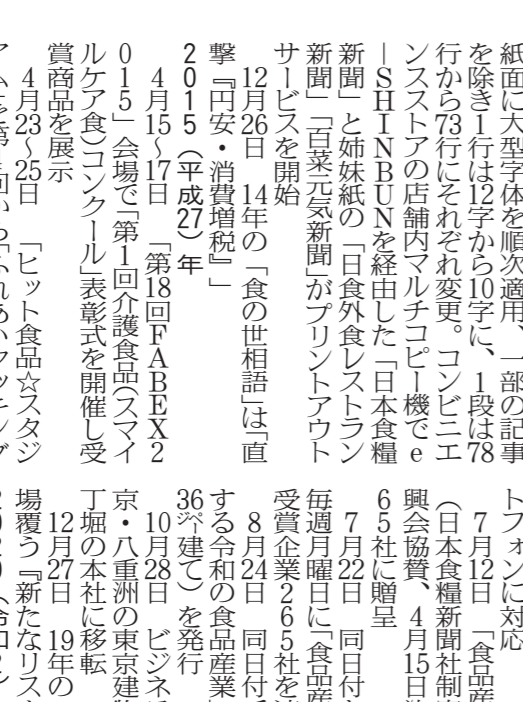
11月19日 日食外食レストラン新聞創刊50周年を記念して制定した「業務用加工食品ヒット賞」の第1回贈呈式を開催。

1998(平成10)年
5月21日 千葉市の幕張メッセで惣菜デパート・弁当・外食専門展「第1回FABEX展」を開催。

紙面からWebへ

2008(平成20)年
4月1日 創刊65周年。

1月1日 日本食糧新聞の1面に大型字体を採用し1行は12字から10字に、1



1943年1月9日付 3号
1977年8月12日付 5000号
2008年6月9日付 1万号

1943(昭和18)年
1月1日 「日本食糧新聞」が中央食糧協力会の機関紙として創刊。火曜日・土曜日の週2回発行。記者は朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の日報紙出身者。同年半ばには業界紙出身者も加わる。

1944(昭和19)年
1月20日 空襲対策のための官庁分散に伴い中央食糧協力会の事務所が東京・八重洲の東京建物ビルに移転。

1945(昭和20)年
5月24日 東京大空襲で印刷委託先の読売新聞印刷部が被災。創刊から続いた大判による発行は15日付「79号」までとなる。

7月6日 同日付から印刷委託先を焼けていた新橋田村町の曙新聞に代え、判型もA4サイズに2倍して週1回発行に変更。

9月11日 中央食糧協力会解散。

10月29日 中央食糧協力会弘報部長が戦後の食糧行政の実行機関として新設された中央食糧協会の機関紙として「日本食糧新聞」の発行を申し出て、協力会弘報部1部2課と中央食糧協会の弘報部(昭和21)年

11月7日 連合国軍総司令部が中央食糧協会の継承経営の話があるも中央食糧新聞の継承経営の話があるも中央食糧新聞弘報部長が同日、(株)日本食糧新聞社を設立し12月28日付で法人登記。

11月27日 印刷委託先を読売新聞印刷部に戻し、同日付から創刊時と同じ大判2倍建てで水曜日・土曜日の週2回発行に変更。中央食糧協会の弘報部が発行所となる最終号。

11月29日 同日付から日本食糧新聞社が発行所となる。

12月4日 同日付まで「題字」を変更。「日本食糧新聞」の「日本」の横書き部分だけが現在と逆。

1947(昭和22)年
8月1日 関西支局を開設。

10月1日 中部支局を開設。

1948(昭和23)年
6月1日 関東支局、中国支局を開設。

1949(昭和24)年
1月1日 同日付から2倍建て週2回発行を4倍建て週2回発行に変更。

1951(昭和26)年
1月1日 信越支局、青函通信部を開設。長野支局は信越支局に統合。

1953(昭和28)年
1月1日 創刊10周年。

4月4日 日刊食糧通信の活版印刷化に伴い同日付から2倍建て週3回発行を4倍建て週2回発行に変更。

9月10日 日刊食糧通信の廃刊に伴い、9月14日 週2回発行を4倍建て週2回発行に変更。

11月10日 静岡支局、横浜通信部を開設。

1955(昭和30)年
11月 仙台支局を開設。

1957(昭和32)年
10月10日 信越支局を新潟支局と長野支局に分離。

12月 同年中に印刷の委託先を読売新聞印刷部から日本経済新聞社印刷部(後の日経印刷・現・日経新聞印刷)に変更。

1958(昭和33)年
1月1日 同日付から週3回発行のすべてを4倍建てに変更。前橋支局、千葉通信部を開設。

6月1日 青函支局を解消し北日本総局に、同総局の下には北海道支局と仙台支局を開設。

1957(昭和32)年
4月4日 総局制に移行。関東総局は前橋支局、神奈川支局(同年11月19日付で横浜支局に名称変更)、千葉支局(本社記者の兼任)、関西支局は名称を存続し大阪支局、広島支局、新設の高松支局を、北海道総局は札幌支局、新設の釧路支局を、北日本総局は函館支局、仙台支局を、北越総局は長野支局、新潟支局、静岡支局を、九州総局は名古屋支局、福岡支局、新設の鹿児島支局をそれぞれ統括。

1958(昭和33)年
4月5日 同日付で2000号。

1960(昭和35)年
3月3日 千葉支局を開設。

9月2日 同日付から火曜日・木曜日・土曜日の週3回発行を6倍建ての月曜日・水曜日・金曜日に変更。

1961(昭和36)年
7月1日 金沢支局を開設。

1962(昭和37)年
4月2日 同日付から火曜日・水曜日・木曜日・土曜日に変更。

7月25日 同日付で創刊20周年記念号「食糧産業20年の歩み」(タフプロイット判245倍建て)を発行。

1964(昭和39)年
9月 3000号記念・オリシビック東京大会協賛特集・別冊「世界の食糧・日本の食糧」(タフプロイット判380倍建て)を発行。

10月31日 同日付で3000号。

1965(昭和40)年
3月2日 同日付から一面に食糧業界の肩と意を込めた「コラム」(玉門)を掲載。

1966(昭和41)年
4月1日 総局制廃止。東京、名古屋、大阪の3支社に再編。

1967(昭和42)年
7月31日 函館支局を閉鎖し業務を札幌支局と仙台支局に移管。

11月14日 創刊25周年記念で制定した「食糧産業功労賞」の第1回贈呈式を開催。

1968(昭和43)年
7月31日 同日付で千葉支局を東京支社に合併、同日付で横浜支局を閉鎖し業務を東京支社に移管。

1969(昭和44)年
4月1日 印刷の委託先を日経印刷(現・日経新聞印刷)から日本機械関係印刷所(現・きかんし)に変更。

6月19日 東日本支社を設置し東京支社に代わり札幌支局、仙台支局、前橋支局を統括。

1970(昭和45)年
3月16日 同日付で4000号。

1985(昭和60)年
1月1日 編成本部を廃止し編集本部、営業本部、事業本部(1994年9月21世紀事業本部に改称)などを新設。

1986(昭和61)年
2月6日 印刷委託先を廣済堂から日本機械関係印刷所に変更し、コンピュータ組版システムを導入。日本食糧新聞の紙面に大型字体を採用。1行は15字から13字に、1段は92行から84行にそれぞれ変更。

1987(昭和62)年
1月1日 編集スロガンを初めて掲げ、以降毎年の食糧界への意見提案を開始。

6月 パソコン導入。日本食糧新聞記事データベース(DB)の蓄積を開始。

6月24日 ロサンゼルス支局の開設を印刷所(現・きかんし)に変更。

10月10日 創刊45周年を記念し同日付で「食糧界・21世紀への展望と回顧」(タフプロイット判2分冊)2部、2部(3600頁)を発行。

1988(昭和63)年
1月1日 創刊45年。

1991(平成3)年
10月2日 同日付から一面コラム「胃心伝真」を掲載。一面コラム「玉門」は9月30日付で終了。

1992(平成4)年
3月11日 同日付で「日食外食レストラン」創刊。創刊50周年記念で制定した「日食環境資源協力賞」(現「食品安全安心・環境貢献賞」)の第1回贈呈式を開催。

1993(平成5)年
5月17日 パソコン通信のジー・サーチ、ニフティサーチを通じて「日本食糧新聞」の検索サービスを開始。

6月8日 「日本食糧新聞創刊50周年記念の集い」に業界関係者450人が参加。決定。

1983(昭和58)年
4月15日 「月刊・日食新製品リサーチ」(現「食品新製品トレンド」)創刊。

5月18日 「食品界・経営者の集い」を第1回創刊40周年記念で制定した「食品ヒット大賞」を発表。

11月8日 同日付で6000号。

1997(平成9)年
5月1日 「月刊食品」創刊。創刊50周年を記念して「食の指針」(現「食の指針」)の開設。

6月23日 「ホムページ」の開設。

11月19日 日食外食レストラン新聞創刊50周年を記念して制定した「業務用加工食品ヒット賞」の第1回贈呈式を開催。

1998(平成10)年
5月21日 千葉市の幕張メッセで惣菜デパート・弁当・外食専門展「第1回FABEX展」を開催。

2002(平成14)年
7月5日 9000号記念の「全国小売流通特集」(大判2分冊60倍建て)を発売。

8月31日 9000号記念の「全国卸流通特集」(大判2分冊42倍建て)を発売。

2003(平成15)年
1月1日 創刊60周年。

2月3日 インターネットを日本食糧新聞記事検索サービス。

5月16日 創刊60周年を記念して「全国卸流通特集」(大判40倍建て)を毎年定期発行。

6月19日 「創刊60周年記念の集い」を開催。業界関係者5000人が参加。

7月21日 創刊60周年を記念して「全国小売流通特集」(大判2分冊44倍建て)を毎年定期発行。

2004(平成16)年
4月14日 「第7回FABEX展」004にデザート・飲料ゾーンを新設。

9月1日 日本食糧新聞記事検索サービス「食の指針」に変更。

2005(平成17)年
1月 食糧情報サイト「食サイト」運用開始。

2006(平成18)年
4月12日 「第9回FABEX展」006を開催。デザート・飲料ゾーンは独立展開。第3回デザート・スイーツ・ドリンク展」に昇格。

10月1日 大阪支社を関西支社に、名古屋支社を中部支社に、仙台支局を東北支局に、広島支局を中国支局に、福岡支局を九州支局にそれぞれ名称変更。

1月 携帯電話のWebサイトを開設。「日食携帯メール速報」を開始。

4月2日 日本食糧新聞の1面に大型字体を採用し1行は12字から10字に、1

2008(平成20)年
4月1日 創刊65周年。

1月1日 日本食糧新聞の1面に大型字体を採用し1行は12字から10字に、1

1997(平成9)年
5月1日 「月刊食品」創刊。創刊50周年を記念して「食の指針」(現「食の指針」)の開設。

6月23日 「ホムページ」の開設。

11月19日 日食外食レストラン新聞創刊50周年を記念して制定した「業務用加工食品ヒット賞」の第1回贈呈式を開催。

1998(平成10)年
5月21日 千葉市の幕張メッセで惣菜デパート・弁当・外食専門展「第1回FABEX展」を開催。

2008(平成20)年
4月1日 創刊65周年。

1月1日 日本食糧新聞の1面に大型字体を採用し1行は12字から10字に、1